

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	菅原大地	所属	筑波大学人間系
研究会等名称	ポジティブ心理学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください）</p> <p>会員 10名（うち認定心理士 1名） 非会員 15名（うち認定心理士 1名）</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 （実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください）</p> <p>成果① 実施内容：第4回ポジティブ心理学研究会の開催 実施日：2023年12月9日（12:00-18:00） 場所：Inspired.Lab 内容：今年度は、昨年度の研究会開催時のアンケートの結果を踏まえて、対面で研究会を開催した。研究会のメンバーだけでなく、関係者を含む7件の発表が行われた（プログラムの詳細については研究会のホームページで公開している）。組織行動論、経営組織論を専門とする明治学院大学の林祥平先生を招き、「職場のテレプレッシャー（workplace telepressure）を与える要因とその対処策」について講演いただいた。 成果：研究会の参加者もいわゆるアカデミックポストと呼ばれる大学教員や研究者のみならず、企業で働く方も多く参加した。ポジティブ心理学の基礎研究から、社会実装に近いレベルの実践的な話題まで、既存の心理学研究の枠にとらわれない発想や議論などを行うことができた。研究会後は懇親会も催され、参加者間での情報共有も活性化した。本研究会以外でも、研究会メンバーによるシンポジウムや論文発表が精力的に行われるようになってきており、科研費獲得だけでなく産学連携も始まっている。 将来設計：対面で研究会を開催することによって、研究会に参加した人たちの交流はスムーズになったが、遠方から参加する人も多く、ハイブリットでの開催を望む声も多かった。来年度は、研究会の運営方法を見直して、ハイブリット開催や、複数の場所で研究会を開催することを検討している。研究会のメンバーも当初から5倍ほどに人数になっており、いわゆるアカデミックポストと呼ばれる大学教員や研究者以外のメンバーも増えてきている。今後は研究会メンバー間での共同研究や社会実装が促進されるように、スラックを通じて情報発信を行っていく。</p> <p>成果② 実施内容：スラックを用いた研究会の運営 2021年度から研究会メンバー間の情報共有が促進されるようにスラックでも研究会を運営しており、現在34名が参加している。メンバー間での共同研究の計画や、学部生（大学院生）の進路に関する相談までおこなっている。引き続き、スラックでの情報共有を行うとともに、定期的にオンラインでの話し合いなども行っていく予定である。</p>		

(様式5)

2024年3月5日

日本心理学会研究会 2023年度会計報告書

研究会名称 ポジティブ心理学研究会

研究会番号 23001

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2023年12月9日	謝金 (林 祥平)	¥27,000
2024年2月1日	間接経費 (研究者個人での管理が認められないため寄付金として扱った)	¥3,000

支出合計 ¥30,000